

法遍寺 から大切な 皆様へ

2022年11月1日

日蓮正宗 年間方針

報恩躍進の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

常に明るく正直な生活

年間実践テーマ

①真剣な勤行・唱題で
歓喜の行動

苦難を開く

勤行・唱題

②僧俗一致の折伏で広布
へ躍進

諦めず

最後まで

③御報恩の登山と寺院参
詣で人材育成渴仰恋慕・朝夕の勤行
家庭訪問・寺院参詣・

支部総登山

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料



2022年10月29日:御速夜(おたいや)、30日:御正当(ごしょうとう)の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は、静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日頭上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人様の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ「一切の乱れを打破する信心」

宗教の正邪は、その教義に道理と文証が確立されているかで決判される。大聖人が立正安国論をご述作された当時の、大地震の連続・疫病等による民衆の塗炭の苦患と惨憺たる様相は、まさに仏が示す「悪世末法」である。大聖人はこれを肌身で感ぜられ、この現証の源は「邪宗教にあり」と見通された。その根拠たる道理文証を示す一大論文が安国論である。災難の由来は大きく三つに約される。一つ目は「悪業の民衆が同時に生れる故」、二つ目には「国王の教令が理に背く故」、三つ目は「国と民が正法を誹謗する故」である。何も遠い世界の話ではない。国の乱れ、民の乱れ、家庭の乱れ、個人の乱れの救済である。この本仏の慈悲に震撼し、一切の乱れを打破する唱題と折伏なくして仏国土は築けない。共々に銘記しよう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ(創価学会破門の経緯を知らない方へ その27)

平成2年7月の連絡会議において、学会側は狛下・宗門に対し種々の批判を行なったが、その中の殊に事実と相反する件について宗門は、8月の連絡会議で学会側にこれを指摘した。すると学会側は、池田・秋谷の両氏が狛下から「法主の発言封じは驕慢だ! 謗法だ! 懲罰にかけろ!」と怒鳴られたと言い出し、その非をならしてきた。翌日、藤本総監は狛下にそれを報告し、これに対し狛下は、「驕慢謗法ですとは言ったが、『懲罰』とは絶対に言っていない」と語られた。藤本総監はその旨を電話で秋谷会長に伝えた。秋谷会長は「狛下がそうおっしゃるなら、そうかもしれません」と一応の納得を示した。しかしその後、秋谷会長から藤本総監に電話が入り、この「懲罰発言」の有無を蒸し返してきたのであった。(次回 秋谷会長の電話での主張など)

③ 正しい仏教への信仰を知らない方へ(文殊の知恵について)

「三人寄れば文殊の知恵」という諺がある。愚か者でも三人集まれば文殊のような知恵が浮かぶ、との意味である。文殊菩薩は、釈迦に代わって因縁や真理を説くお役であった。文殊は菩薩界の「智慧第一」の方であり、舍利弗も及ばない智徳を持っていた。なぜなら、過去世では釈迦の師だったのである。文殊の智慧は人に利益を与えるために使われる。人の社会にあつて我々は、慧眼のもとに正義を説き、また邪見を見抜く人になりたいものである。その人はまた人々に幸せの方途を示し、導く人であろう。現代は利己のために悪知恵を働かす人がどれほどいるだろう。日蓮大聖人は、智慧もない迷いの凡夫の我々が妙法を信じ唱えるとき、苦しみの海を真如の大海に代える智慧を文殊から授かると説く。一緒に妙法を唱え、教えよう。